

「車の解体だけでなく、リサイクル率向上にも力を入れている」と語るのは、車の解体、中古部品販売を手掛けるKMI（養老郡養老町船附）の近藤正秋社長（65）。

1975年創業。80年代後半から、リサイクル事業にい

リサイクル率向上に力

たい」と話す。

新興国市場での業

績も顕著で、現在、フィリピンやロシア、タイなどと取引。今後シェア拡大のためにはインターネットによる取引が鍵を握るといふ。「未整備なので早急に整備し、ニーズに合った仕入れをして回転率を高めていきたい」と将来を見据える。



近況

ち早く着目し、関連会社を設立。現在リサイクル率は約9割に達しており、今後は廃プラスチックの再利用に力を入れる。また今年5月には、関連会社を合併する予定で「この業界は日進月歩。立ち止まることなくチャレンジを続けること」